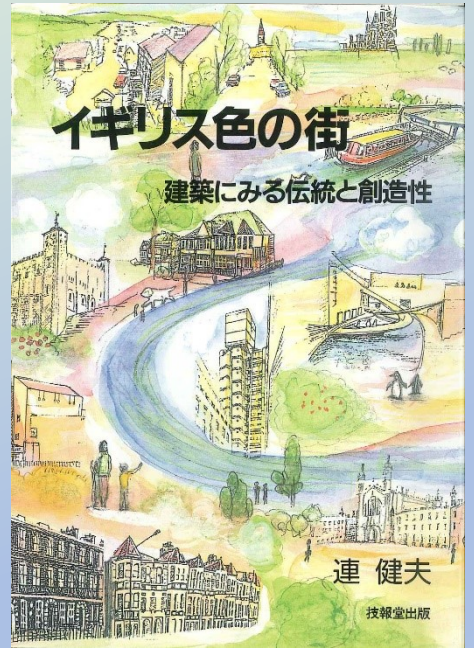
# 「仙台駅フロントゾーン・勉強会／英国CABEから学べる事」

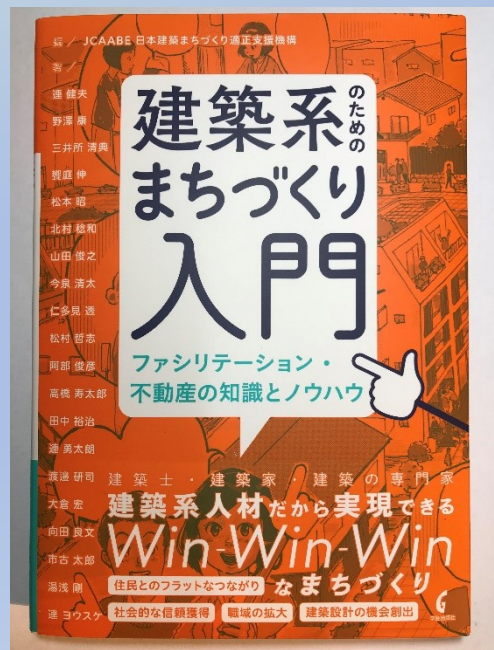
## ／デザインレビューとファシリテーション

連健夫（むらじたけお）、建築家
JCAABE日本建築まちづくり適正支援機構代表理事

1956年京都市生まれ、東京都立大学大学院修了、建設会社10年勤務の後、胃の手術がきっかけとなり、渡英、AAスクール留学、AA大学院優等学位取得の後、同校助手、在英日本大使館嘱託、1996年帰国、建築設計の傍らまちづくりに関わっている。早稲田大学、芝浦工業大学講師、港区まちづくりコンサルタント港区景観アドバイザー、2017年～日本建築まちづくり適正支援機構、代表理事

→参加の設計・まちづくり





# JCAABE日本建築まちづくり適正支援機構：良質な建築、美しいまちづくりを目的にした一般社団法人

- 認定まちづくり適正建築士、認定セミナー
  →一級建築士＋専門資格が受講資格、2日の集中講座
  ※建築設計のみならずまちづくりの専門家
- 「まちづくりファシリテーター養成講座」
- ※ファシリテーター：住民、専門家、行政をつなぐ調停者

→2024年度日本建築学会教育賞／2023年度日本工学教育協会日本工学教育賞（業績）受賞

2024年日本建築学会教育賞（教育貢献）、2023年日本工学教育協会工学教育賞（業績）受賞

JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座実施委員会
JCAABE Community Development Facilitator Training Committee

# 建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践

Development and Practice of "Architectural Community Development Facilitator Training Course".

## ○社会的意義・目的と概要　「つなぐ」をテーマにした促進者の育成

現在、地域における問題・課題として「空き家・空き地」「防災」「地域活性化」「福祉の充実」「人口減少」「担い手不足」などが存在している。それらを総合的に解決、推進するためには、地域創生を含めたまちづくり活動が大切である。行政においては、空き家対策は緊急課題であり、地域住民と共に解決策を見出すことが求められている。これには建物だけではなく資金調達や運営、活性化といったエリアマネージメントを含めた総合的な知識が必要である。まちづくりには多様な立場の人が関わるため、その合意形成には専門的手法が必要となり、それを推進するためのファシリテーターが必要であるが、それを担う人材が不足しているのが現状である。本取り組みは、全国の専修学校・大学などの建築系コースにおいて建築をベースとしたまちづくりファシリテーター講座の開発と実践を行うことで住民・市民と協働できる人材育成を行うものである。この取り組みは、2019年度文部科学省の「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」に日本建築まちづくり適正支援機構（JCAABE）が申請・受託してスタートした。幅広い分野から建築士、建築家、研究者、教育者等が集まり、事業実施委員会を設置し取り組んできた。2021年からは各地域に根差した高等教育機関と協働し教育活動を実施し拡がりを見せている。

## ○事業の経過　調査ー開発ー実践ー未来へ　段階を踏まえた人材育成

まちづくりファシリテーター養成講座事業実施委員会 2019.10-2021.03
調査:2019.11-2020.02

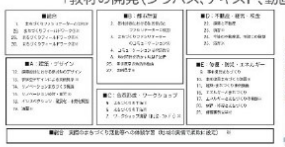
実践2020-　麻生建築&デザイン専門学校、新潟工科専門学、日本工学院専門学校

実践_ 2022-・修成建設専門学校・東海工業専門学校金山校　・静岡産業技術専門学校

実践_ 2023-（教材使用含む）・岡山理科大学専門学校・読売理工医療福祉専門学校・立命館大学　・名古屋女子大学

2019　2020　2021　2022　2023　未来へ

教材の開発（シラバス、テキスト、動画教材、マニュアル、広報資料など



教科書発刊(2021.09-)

文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
カイロ旧市街保存/住民参加のまちづくり

スプリングセミナー 2023.03-

サマーセミナー 2023.08-

## ○事業実施委員会　多様な実践者・研究者・教育者

※敬称略、委員長、副委員長以外50音順、所属は2020当時

連　健夫　（日本建築まちづくり適正支援機構）
松村哲志　（日本工学院専門学校）
阿部俊彦　（立命館大学）
市古太郎　（東京都立大学）
今泉清太　（麻生塾麻生建築&デザイン専門学校）
大倉　宏　（筑波まち遺産の会代表）
大槻一敬　（大槻企画制作事務所）
里中勝哉　（パナソニックホームズ株式会社）
鈴村大介　（大東建託株式会社）
高橋寿太郎（創造系不動産）
田中裕治　（株式会社リライト）
西川直子　（建築ジャーナル）
仁多見透　（国際総合学園新潟工科専門学校）
野澤　康　（工学院大学）
茨田禎之　（株式会社アットカマタ）
松本　昭　（チームまちづくり）
向田良文　（デザインタック株式会社）
連勇太朗　（特定非営利法人モクチン企画）
連　洋助　（連ヨウスケアトリエ）
山田俊之　（日本工学院専門学校）
渡邊研司　（東海大学）
北村稔和　（(株)家フリマ）

## ○調査　事例調査、アンケート調査、ヒアリング調査（学校、企業、行政など）

※日本建築学会第20回建築教育シンポジウム建築教育研究論文報告集　参照

□調査結果・考察・まとめ（抜粋）

- まちづくりファシリテーターは行政・企業ともに必要と回答
- 特に住民・市民と専門家をつなぐコミュニケーション力の育成が必要性
- コミュニケーション力育成は協働する態度（Attitude）の育成が重要
- この考え方は社会にとって重要であるが新しい考え方であり、それをわかりやすく説明するためのツール、広報などが必要
- 多様な課題解決に向けてまちづくりの専門家としての幅広い知識の習得必要
- 教育を実施に対する専門家不足の現状。全国各地域で実施することへの工夫の必要性

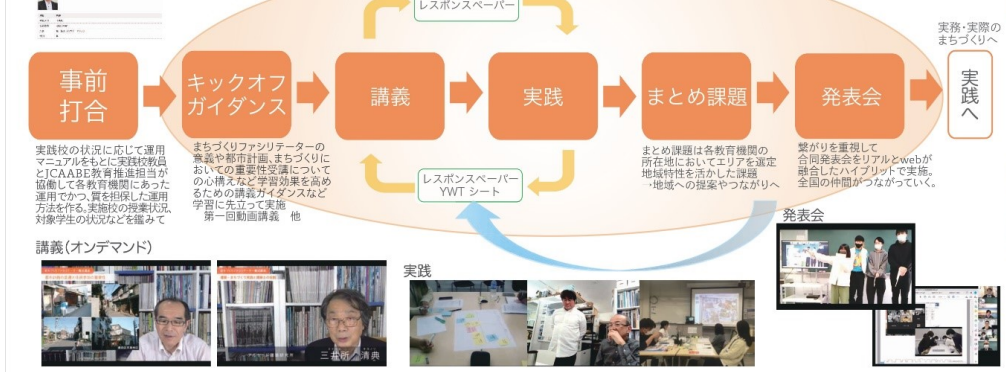
## ○開発1　まちづくりファシリテーター人材育成のイメージ

※1「人」と「人」をつなぐ目線をもった、※2参加と協同の手法を実践できる、※3まちづくりの専門家が不足している。

専門家の条件①　専門家の条件②　専門家の条件③

## 開発・実践に向けたPOINT

**T**　Technic & Theory
**T字型人材像：協働を促進する人材像**
○幅広い知識と提案できる専門力　○提案できるコミュニケーション能力




講義（オンデマンド）

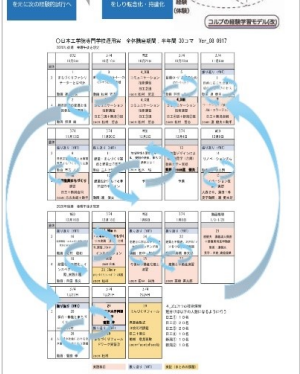


実践



発表会





### テキスト

実践者・研究者・教育者による実践的なテキスト

建築系まちづくり入門
/学芸出版社

### 講義動画

スキマ時間視聴をする考えて分割して作成
スマートフォンでも見える大きさのテロップ
講義動画は基本教科書執筆者が担当

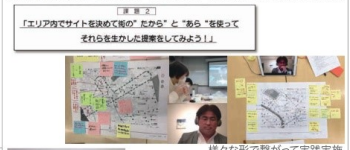
### わかり易くする工夫

イラスト
・漫画・動画

### 見学動画の工夫

擬似体験できるような構成

### 実践課題　実務者・研究者が作成した実践的な課題




様々な形で繋がって実践実施

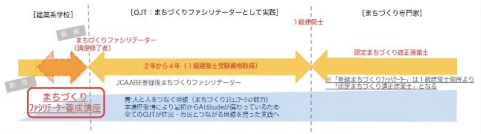
発表会に行政職員が参加

全国をwebで繋いで実施

### 運用マニュアル

運用マニュアル掲載事項
・育成する人材像と教育目的、方向性のポイント
・シラバスと運用
・モデルカリキュラム
・web利用のポイント
・リアルとwebの融合に向けて
・web会議システムの利用について
・クラス管理ツールの利用法
・レスポンスペーパーとYWTシート
・講義（オンデマンド）
・反転授業について
・実践について
・演習の課題例
・判定について

## ○未来へ　人材育成のキャリアストーリー




まちづくり人材育成のキャリアストーリーを作成し公開
学び直しやキャリアアップなど、未来につながるキャリアストーリーを提示

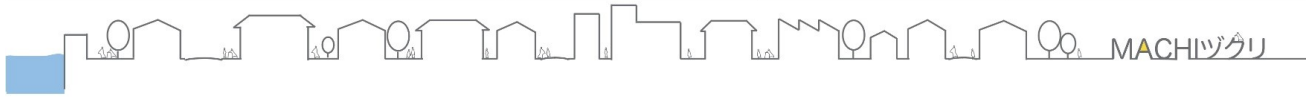
### 受講生の広がり

4年間で講座に参加した
学生383名　修了者289名
専門学校　8校　＋　2大学（教材使用）
日本工学院専門学校・新潟工科専門学校
・麻生建築&デザイン専門学校・
東海工業専門学校金山校・修成建設専門学校・
静岡産業技術専門学校・
岡山理科大学専門学校・読売理工福祉専門学校
教材使用　立命館大学・名古屋女子大学
令和3-4年
文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
カイロ旧市街保存まちづくり

### 社会人のキャリアアップ機会の提供

### 海外でのまちづくり人材育成へ

令和3-4年 文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
カイロ旧市街保存まちづくり/住民参加のまちづくり
https://jcaabe.org/page-2377/




# JCAABEは英国のCABEをヒントに設立された

# 英国CABEから学べること

協議調整・
デザインレビュー
により
良質・美しい
といった定性的
価値観を
建築・まちづくり
に入れる
仕組み

# 英国CABEとは何か

CABE(Commission for Architecture & the Built Environment):建築・まちづくり機構

- 1999年に英国で、良質な建築、美しい都市をつくるためにデザイン評価、支援、助言をする機関として、政府の外郭団体として設立された。
（年間:20億の予算、100人のスタッフ）

- 公共建築の許可申請に必要な審査(ﾚﾋﾞｭｰ)をCABEが実施している。民間の大型プロジェクトも同様である。
- 2011年にデザインカウンシルと併合し慈善団体となる。家具も含めた広いエリアを扱う。政府からの助成はなくなったが、13年の実績の元、様々な団体からの支援金、審査料等の収入で運営している。

# CABEの役割

- ①審査(ﾃﾞｻﾞｲﾝﾚﾋﾞｭｰ)：建築計画について、 計画側が建築計画の内容を説明し、それに対してレビューパネラー(専門家)がアドバイスする。 建築の質を高めるのが目的。

- ②実現支援：地方自治体の計画策定、公共施設の計画支援、コンペのアドバイスを行う。

- ③教育と広報：建築や街づくりについての、教育、出版、研究活動、WEBでの広報活動

CABE
Design Council

POPULOUS
POPULOUS
POPULOUS
POPULOUS
Section A-A'
Section B-B'
Section D-D'
Section E-E'

# デザインレビューのポイント

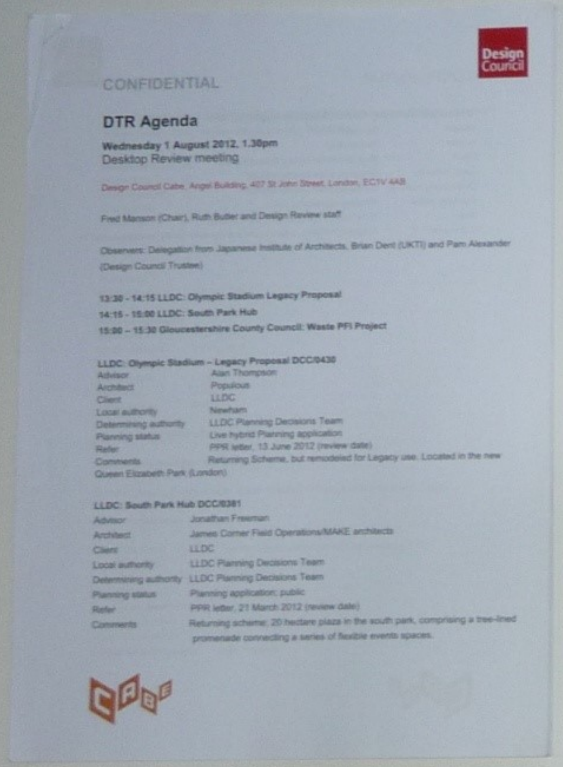
- 公開性：記録を残し、誰でも参照することが出来る。
- 客観性：デザインのスタイルについて評価するのではなく、良質なデザインとは何かを示し、問題点や課題を表出させる。
- 協議調整の機会として、専門家が計画側にアドバイスをしている。

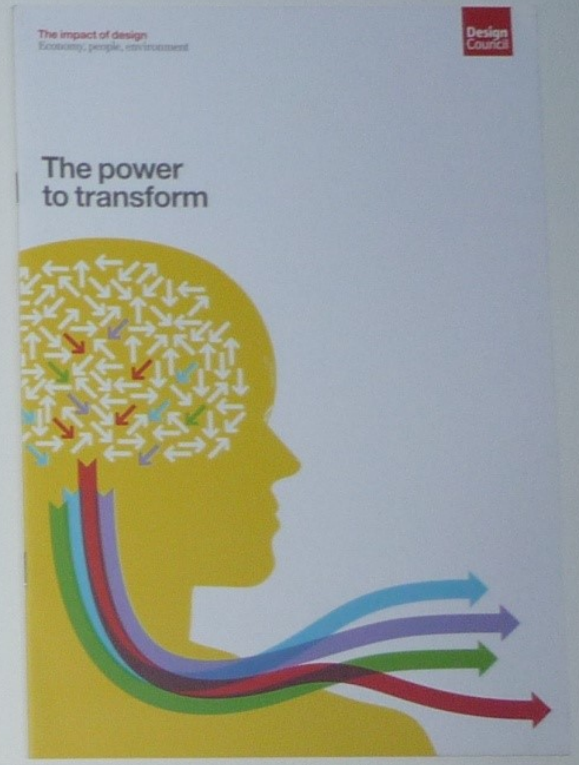
# CABEの良質なデザインとは

①建物が、その目的に合っており、持続可能であること
②周囲の関係において適した場所での開発であること
③コミュニティ推進など、利用者のためにデザインされていること
④二酸化炭素排出を最小限に抑えるなど、環境に配慮されていること
⑤人々が楽しむことが出来、誇りを持てる空間であること。

→誰でもが理解できる評価基準

# CABEの出版物（広報、教育）





# 日本の建築・まちづくりの課題

- 建築確認であり、数量的な判断基準で、美観や保存など文化や質に関わる定性的判断は含まない。
- 景観法による景観審議会の審査はあるが、既に計画が固まった時点での審査であり、修正範囲が限られている。審議会の権限も弱い。

  事前調整はあるが、担当者は専門家ではない。

→協議調整（デザインレビュー）の機会がない

# 日本版CABEは可能か？
# →協議調整・デザインレビューの機会をつくる

■景観法の改善

→審議会の前の事前調整において、実務家を入れて協議調整・デザインレビューをおこなう。

■事業者側がまちづくり協議会に対して、実務家を交えて協議調整・デザインレビューをする。

■公共建築における協議調整・デザインレビューの機会を計画段階で設ける

■建築確認の前段階で協議調整・デザインレビューをする条例を作る。

※第三者としての専門家がデザインレビュー、アドバイスをする仕組みづくり

計画側がまちづくり協議会に来て建築計画についての意見交換（赤坂の事例）

３ケ月後に、協議会の要望を取り入れたデザインを説明、拍手が起こった！

# ・萌芽事例

・■京都市優良デザイン促進制度（2007年3月～）
・→厳しい規制（高さ規制等）を用い、緩和の条件として
・デザインレビューを取り入れる。

・■広島県と日本建築家協会中国支部+広島県建築士会
・が魅力ある建築部の創造にむけた連携協定（2013年7月
・→公共建築のプロポーザルコンペの
・審査にデザインレビューを取り入れる

・■目黒区「景観アドバイザー制度」において
・３人の建築士・建築家が関わってでサインレビュー
・を実施、区内の公共建築計画についてアドバイスも
・行っている。

■新横浜市庁舎計画案、公開デザインレビュー
2017年4月27日
主催：日本建築家協会神奈川支部
神奈川建築士会
日本建築学会関東支部神奈川支所、
共催：横浜市

# 海外のまちづくりでの協議調整：カイロ旧市街住民参加の保存まちづくりで専門家にファシリテーション技術を指導し、住民ワークショップを実施

※文化庁、文化遺産国際協力拠点交流事業
JCAABEが受託

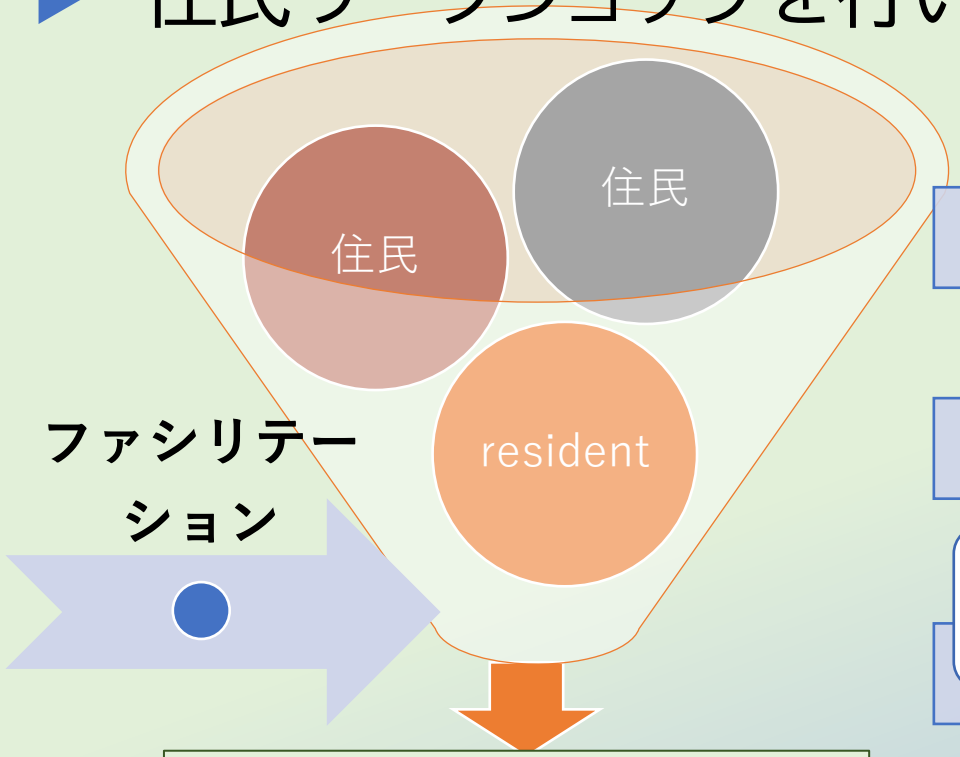
スークシラーハ通りと6つの歴史的建築物の利用保存を住民参加で検討

One of the collapsed

日本から専門家がオンラインで
まちづくりにおけるファシリテーション
技術を指導

エジプト人建築家が
ファシリテーターを行い
住民参加のワークショップを実施

- JCAABEファシリテーター養成講座をエジプトの建築家・専門家に行う。
- ・住民ワークショップを行い、ファシリテーションを実践する。




住民からの意見

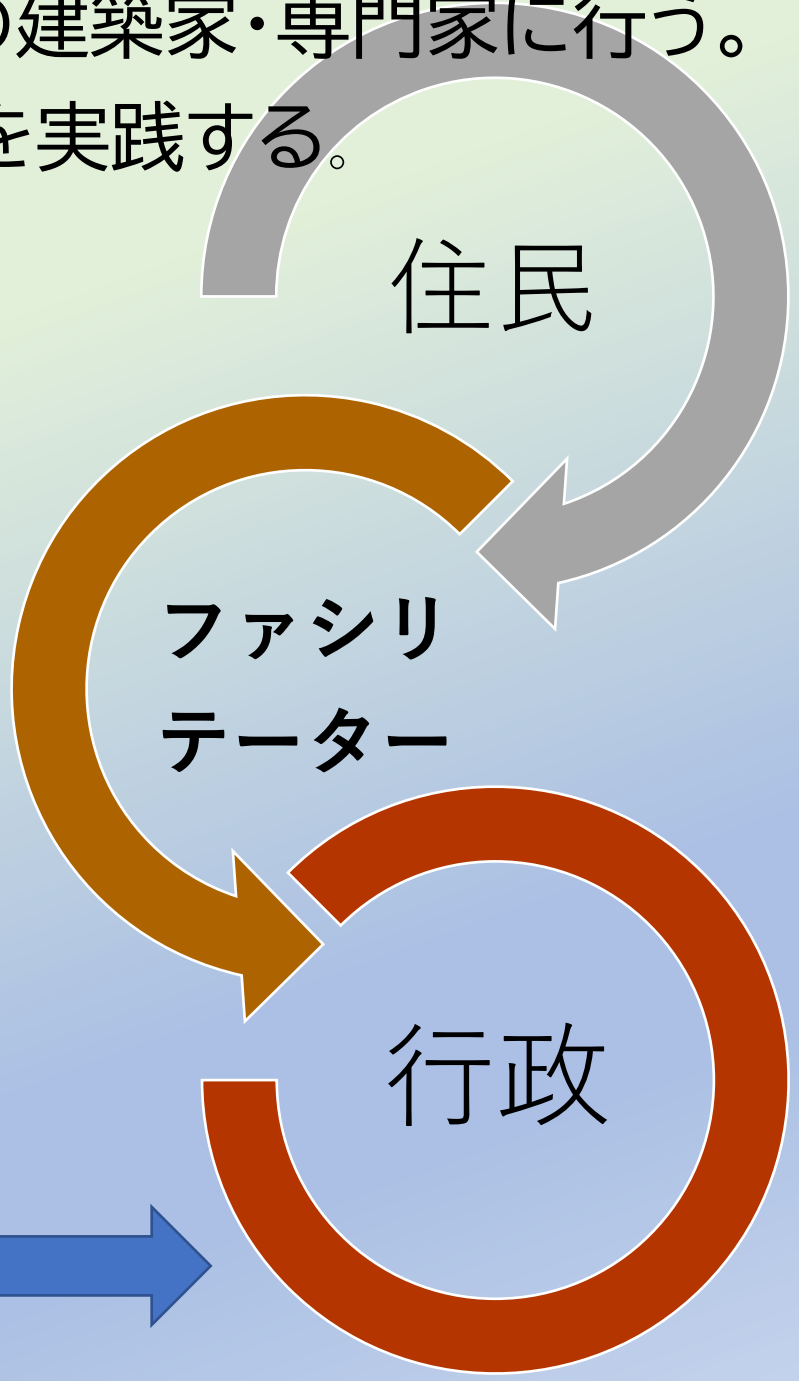
**ファシリテーター**

←建築家

←都市プランナー

←ヘリテージマネージャー

←etc.



| 1st & 2nd | 3rd & 4th | 5th & 6th | 7th, 8th, 9th | 10th & 11th |
|---|---|---|---|---|
| • ファシリテーターとは何か？(連)<br>• ファシリテーション技術(連) | • 市民と協働するための手助け（松村）<br>• 事前復興まちづくり（市古） | • カイロのイスラム建築の特徴（深見）<br>• エリアマネージメント（宍戸） | • 文化遺産のソフトとハード（苅谷）<br>• 建築保存と景観（岡田）<br>• 川越の伝統工芸とまちづくり（荒牧） | • リノベーションによる現代化（磯野）<br>• ヴァナキュラー建築と建築家の役割（布野） |

6,7 → 8 → 9,10 → 11 → 12,1

①交通計画WS

②ゴミ問題WS

③防災WS

④歴史的建築物再利用WS

⑤無形遺産WS

⑥建物メンテナンスWS

⑦伝統工芸WS

⑧観光と居住WS

⑨空き家空き地利用WS

ファシリテーター養成講座（11回）
住民ワークショップ（９回）

# JCAABE発行、まちづくりファシリテーター養成講座修了証

JCAABE
CERTIFICATE

まちづくりファシリテーター
MACHIZUKURI FACILITATOR
(Urban Community Development Facilitator)

has been awarded to

NAME

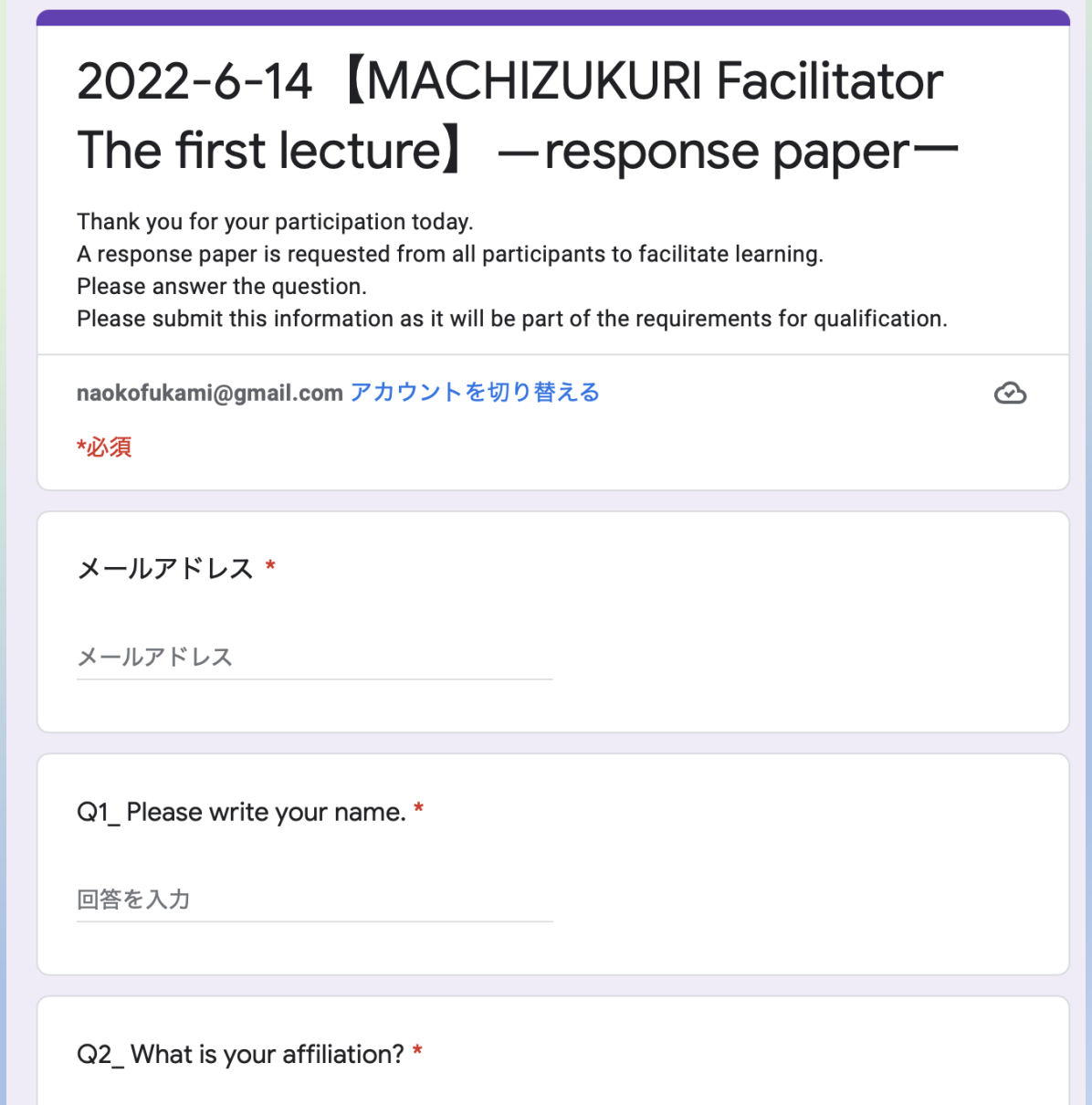
Date of completion : 28th February 2023.

by

Japan Commission for Appropriate
Architecture and the Built Environment

This certificate certifies the completion of the Urban Community Development Facilitator Training Course. The course was organized by Japan Commission for Appropriate Architecture and the Built Environment.
This scheme is part of the Agency for Cultural Affairs' 2022 International Exchange Program for Cooperation in Cultural Heritage "Project for Sustainable Conservation in the Historic Cairo / Community Development with the Participation of Local Residents".

# ZOOM受講終了時に受講者が意見・感想を記入するアンケート



2022-6-14【MACHIZUKURI Facilitator The first lecture】—response paper—

Thank you for your participation today.
A response paper is requested from all participants to facilitate learning.
Please answer the question.
Please submit this information as it will be part of the requirements for qualification.

naokofukami@gmail.com アカウントを切り替える

*必須

メールアドレス *

メールアドレス

Q1_ Please write your name. *

回答を入力

Q2_ What is your affiliation? *

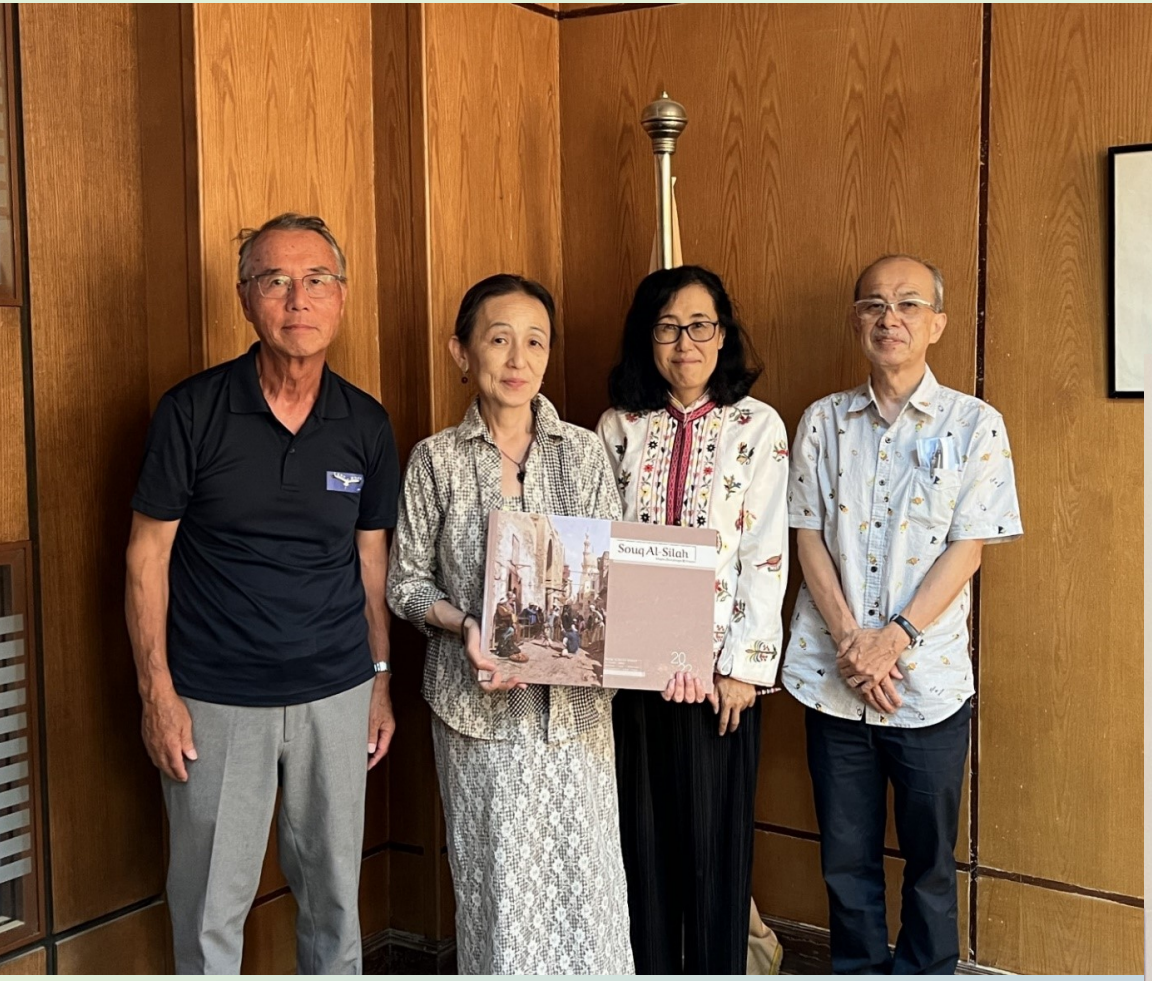
- 2022年8月カイロ訪問、専門家への
- 指導と住民ワークショップを実施

ファシリテーター
の進行による
グループ
ディスカッション

グループ発表の後、全体のまとめを
アラー教授、深見氏と共に行う。

アラー氏に赤坂の手ぬぐいを
プレゼント

エジプト環境庁等、ステークホルダーを招いてプレゼンテーション
→街の課題と方向性を共有！




日本大使館訪問、岡大使と面談
スークシラーハのプロジェクト
を説明、協力依頼→現地訪問

ユネスコ、カイロ事務所訪問
→助成含め、協力は可能

# 市民参加の街づくりのポイント

- 地域のたから（良い点）を活かすと共にあら（問題点）を解決
- 地域の特徴、ヴァナキュラー（地域性・土着性）を見出す
- 文化の継承という意味で歴史的視点を大切にする
- 福祉のまちづくりの視点を大切にする
- コミュニティーづくりの視点を大切にする

- ※地域に根差すコミュニティー（コモン）
  興味関心が同じなコミュニティー（アソシエーション）
  の両輪の活動が求められる。

以前は、建築設計やまちづくりは専門家だけで行っていました。

まちづくり←市民が参加、

建築設計←利用者が参加

参加により、住みやすい街、使いやすい建築になる。

行政＋専門家＋住民の良い関係・仕組み作りが大切！

# 法令の中での「参加」位置づけ

・1968年：都市計画案の縦覧、意見書の提出
　　→パブリックコメントに発展
・1980年：地区計画制度の創設
（地区スケールの計画ツール、住民参加、合意形成の必要性）
　　→多くの街でまちづくり条例ができた。
・1992年：新都市計画法で、住民参加が奨励された
　　→都市マスタープラン、ワークショップの手法
・2004年：景観法の制定

# まちづくり条例は
# 地域の特性を活かすために大切

- 地域の特性を活かす→市民参加
- まちづくり条例は、地方分権一括法により増加した。

・2000年:地方分権一括法

→法律の解釈を地方自治体で条例により定めることが可能となった

※法を補い、地域独自のまちづくり活動を推進

※ただし、どこの自治体にもまちづく条例があるわけではない。

市民参加を推進している街→まちづくり条例

# 様々なまちづくり条例

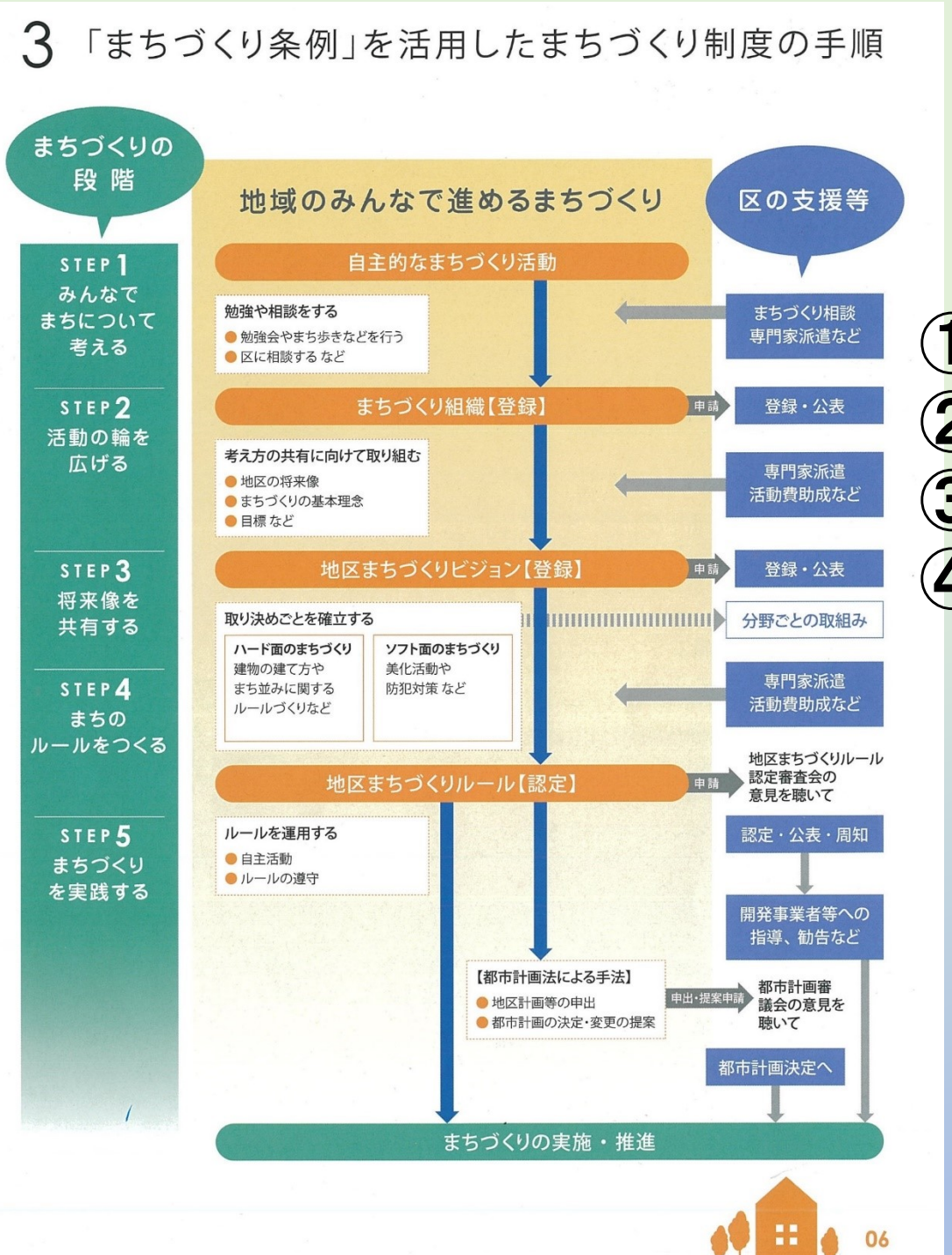
- 市民参加を明確に位置づけ、活動支援や提案の扱いを定める条例
（八王子市、町田市、相模原市等）
- 行政が戦略的にまちづくりを推進する地区を指定して市民と共にまちづくりを進めようとする条例（国分寺市、町田市等）
- 区全体をエリア分けをして各エリアにまちづくり協議会を設置してまちづくりを行う（中央区など）

※銀座では、建築行為を行う者はデザイン協議会において協議調整をおこない、そこで合意、指導を得た上で、確認申請に進む仕組み（銀座デザインルール）

・杉並区では、地区指定型まちづくり協議会と共に、テーマ型まちづくり協議会を設置している。

# まちづくり活動に対する支援（港区）

- まちづくり相談：各地区総合支所の相談窓口でまちづくりに関する情報提供や調整を行う。
- 出前講座：学習会等へ区の職員を講師として派遣し、区の取り組みや制度について説明する。
- 専門家派遣：登録している専門家（都市計画、建築設計、不動産、税等）を講演会、研究会、計画立案アドバイザーとして派遣する。
- 広報・周知：まちづくり組織、まちづくりビジョン、街づくりルールを公表、まちづくり活動を地区情報誌でPR
- その他：まちづくり組織へ活動の助成金、活動の場の提供




# 街づくり条例における住民参加のプロセスの例（港区）

①自主的な活動
②仲間づくり（登録まちづくり協議会）
③将来像を共有（まちづくりヴィジョン）
④まちのルールを作る（地区まちづくりルール）

→住民がこのプロセスにおいて
地区計画を作ることができる。

※登録まちづくりコンサルタントが住民を支援する

# まちづくり組織の登録要件（港区）

- 活動実績があり、それを公開している。
- 0. 1ha以上の区域内で活動

  →エリアは自由に設定できる
- 構成員が10人以上
- 構成員の内、区域内の区民の割合が3分の2以上
- 代表者の選出方法が民主的である。

# タカラ（良い点）とアラ（悪い点、課題）を見つけ解決策を考えるワークショップ

事例：
赤坂通りまちづくりの会

当方の立場：
登録まちづくりコンサルタント

カメラ係、
メモ係
ポインター係

→小道具は重要！

資源・ごみ集積所
産経新聞
日々の暮らしに確かな紙面
確かな読み応えの
2,950円
生活応援価格

ゴミ

監視カメラ作動中
立ち入り禁止

広告

ガードレール

グループに分かれて
ディスカッション
→4~6人位が話やすい

※全員が話す機会

気が付いた点、
好きな所、
問題点、
改善点
などを付箋に
記入し、
地図に貼る

→どれが大切か、
優先順位を
話し合う

# 先進事例見学（元町）

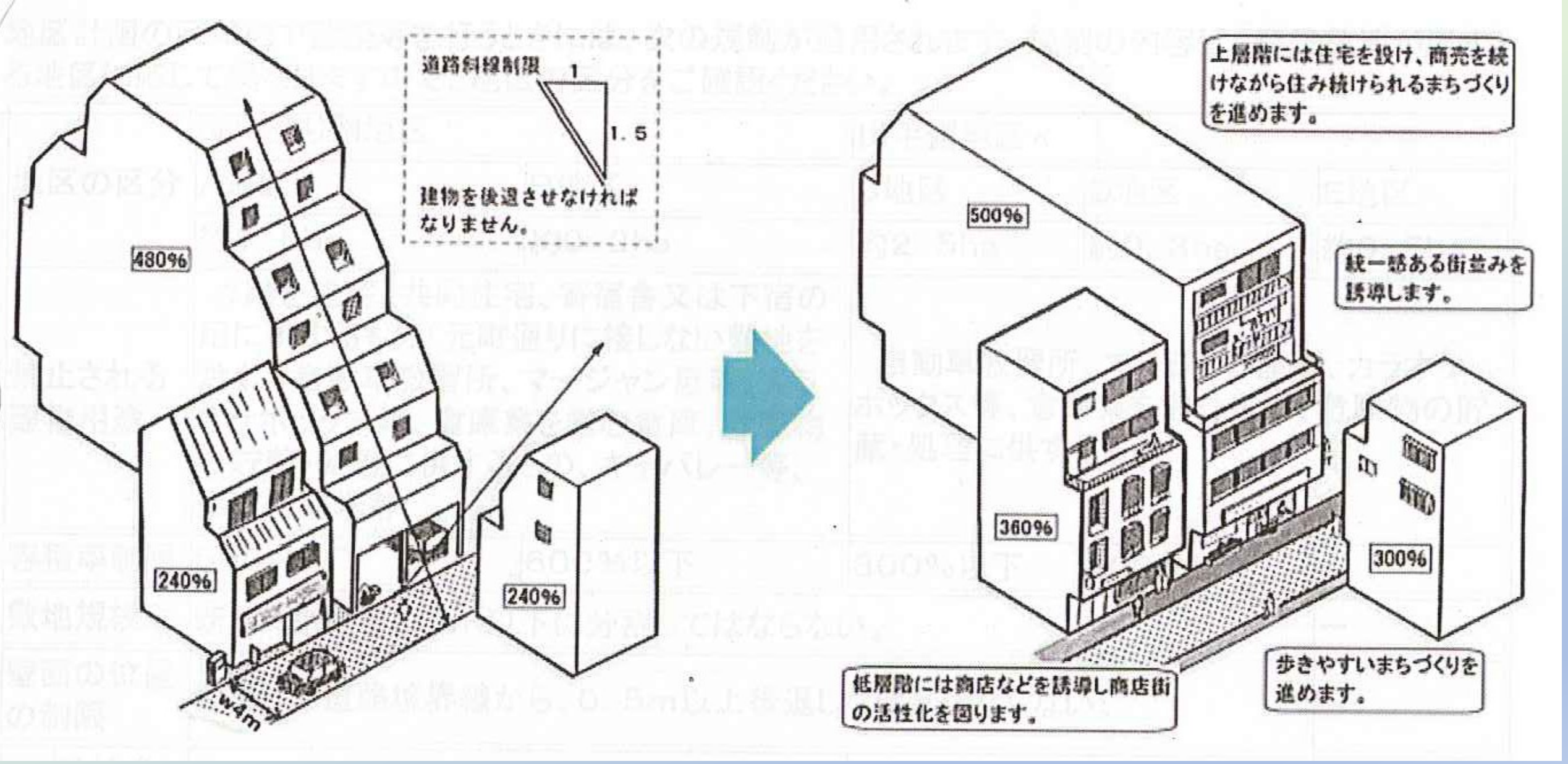
ゲート

クランク状の道

ストリート
ファーニチャー

ボラード

切文字、
外照式看板
はオシャレ
　　→街のルール




街並誘導型地区計画：セットバックして道を広くする代わりに、
斜線制限をはずして容積率いっぱいに建てられるようにする

赤坂、街づくりの提案の実践

落書きﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ

ビジョンづくりﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ

# ビジョン案を作り、賛同者を募る

→住民の2分の1以上が必要
→防犯性の高いマンションでは
住民と直接コンタクトを
とることができない。
→断念

→我が街ルール10ケ条(自主ルール)
を作成して運用

## 赤坂通りまちづくりビジョン（案）

「赤坂通りまちづくりの会」ではまちづくりの範囲と
赤坂の2，3，5，6，7，8，9丁目を扱っていま
今回、ビジョンの登録において、赤坂６丁目一部の
旧日大三高通り沿道地域を対象地域としました。
地区まちづくりビジョンの登録要件として、

①区域内の在住区民の過半数の合意が必要
②対象区域が他のまちづくりビジョンと重複していな
③土地、建物に係る権利を制限とする内容でない
④説明会の開催等により事前に対象区域内の区民に
　周知し、その意見を聴いてまとめたもの

となっており、比較的皆様の合意を得やすい範囲とし
ことで設定しました。今後、ビジョンが登録され、
ルールづくりが行われ、活動が軌道にのった後には、
この範囲を広げていく予定です。
是非、この第１歩でございますので、趣旨をご理解
ビジョンに賛同して頂ければありがたく存じます。

**対象地域：旧日大三高通り沿道地域**

連絡先：「赤坂通りまちづくりの会
事務局　寺腰　(03-3588-166

**【花咲か赤坂】**

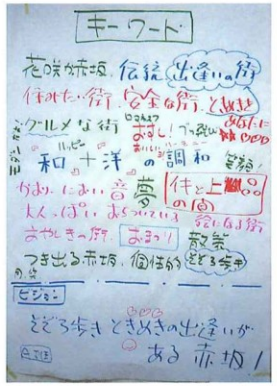
そぞろ歩きが楽しめ、
ときめきの出会いがあり、
住む人、働く人、訪づれる人、
皆にとって優しい街、
子供が楽しめる育遊の街、
バリアフリーで広い空のある街、
緑が豊かで植栽が楽しめる
まちづくりを目指します。
「美しいこと」「栄えること」
の意味から
【花咲か赤坂】
をコンセプトワードとします。

※ビジョンの内容は、コラージュワークショップで出てきた４グループからのビジョンをまとめたものです。

# 通りの改修案

道のデザイン、
→一方通行の検討、
→名前の募集

## 赤坂通りまちづくりビジョン




キーワード・ビジョン

赤坂への想いを表現したコラージュ

【花咲か赤坂】
そぞろ歩きが楽しめ、
ときめきの出会いがあり、
住む人、働く人、訪づれる人、
皆にとって優しい街、
子供が楽しめる育遊の街、
バリアフリーで広い空のある街、
緑が豊かで植栽が楽しめる
まちづくりを目指します。
「美しいこと」「栄えること」
の意味から
【花咲か赤坂】
をコンセプトワードとします。

※ビジョンの内容は、コラージュワークショップで出てきた4グループからのビジョンをまとめたものです。

## 【落書き消し事業　ワークショップ】

■日時：2012年7月14日（土）10時～16時　（参加者：30
■場所：休用地の仮囲

こども達で自由に絵を描く（落書大会）

塗装作業

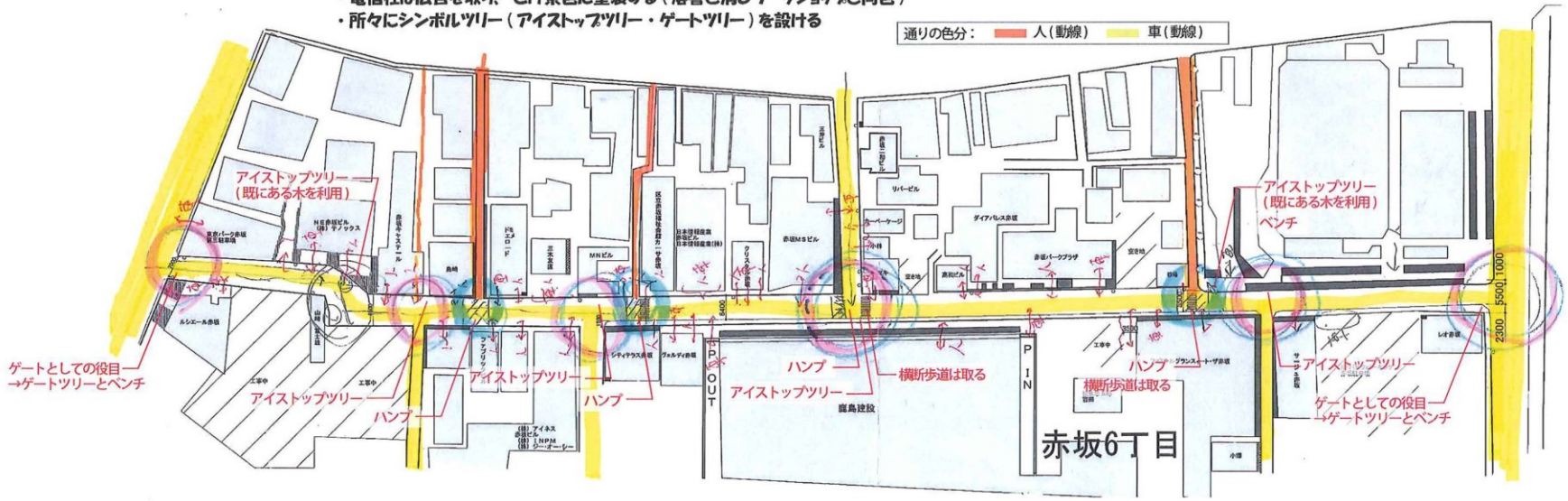
仮囲いに落書きがある
BEFORE

皆で協力して塗装し落書を消した
色はこげ茶：日本塗料工業会2005年度版で、C19-40D、5部艶
AFTER

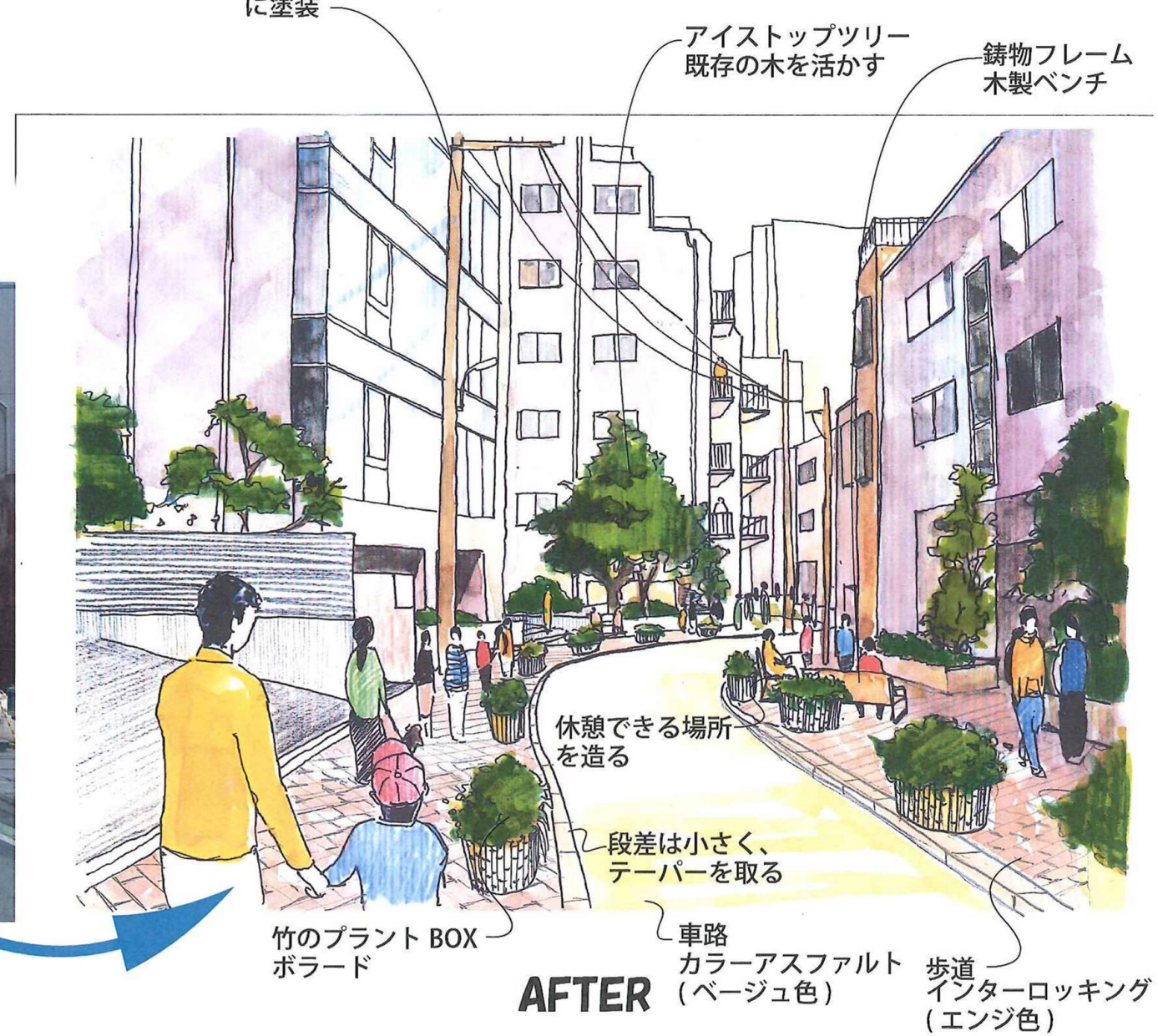
## 旧日大三高通りのデザインコンセプト

＊特徴
旧日大三高通りを横断する車道がなく、歩道を含めT字型に繋がっているうまくデザインすれば、まとまりのある道になる

- 一方通行にして両側に歩道を設ける
- 歩道と車道の段差は小さく、車イスでも移動できるようテーパー（斜め）をとる
- 車道は緩やかに蛇行させて変化をつける
- 歩道はインターロッキング舗装、車道はカラーアスファルト舗装
- 所々にハンプ（盛上げ）を設け、車がスピードを出せないようにする→人が通る小路の出入り口（従来の横断歩道に替わる）
- 歩道の広くなった場所にベンチを設ける
- 歩道と車道の境界にはフェンスを設けず花壇付の置型ボラードとする
- 電信柱は広告を取り、こげ茶色に塗装する（落書き消しワークショップと同色）
- 所々にシンボルツリー（アイストップツリー・ゲートツリー）を設ける



BEFORE




AFTER

# 旧日大三高通り 西側入口部分

<要望書>

# 【赤坂北部地区まちづくりガイドラインへの要望書】

港区まちづくり支援部　都市計画課　様

令和６年３月１３日

赤坂北部地区まちづくりガイドラインの区域変更については、ご反映頂き感謝しております。２月７日に行われましたガイドライン第三回意見交換会の後、当協議会として、この内容を吟味検討し、下記について要望を申し上げます。

① 新築や増改築の計画相談が持ち込まれた際には、事前に住民との意見交換の機会を設けるべく、当まちづくり協議会でご説明いただくよう、ご案内いただく。
※当協議会エリアだけではなく、開かれた場として誰でもが参加できる形とします。

② 安心安全で気持ちの良い歩行者空間をつくるべく、電線の地中化と緑化、ベンチ設置、置き看板の禁止など質の高い都市デザインを推進いただきたい。

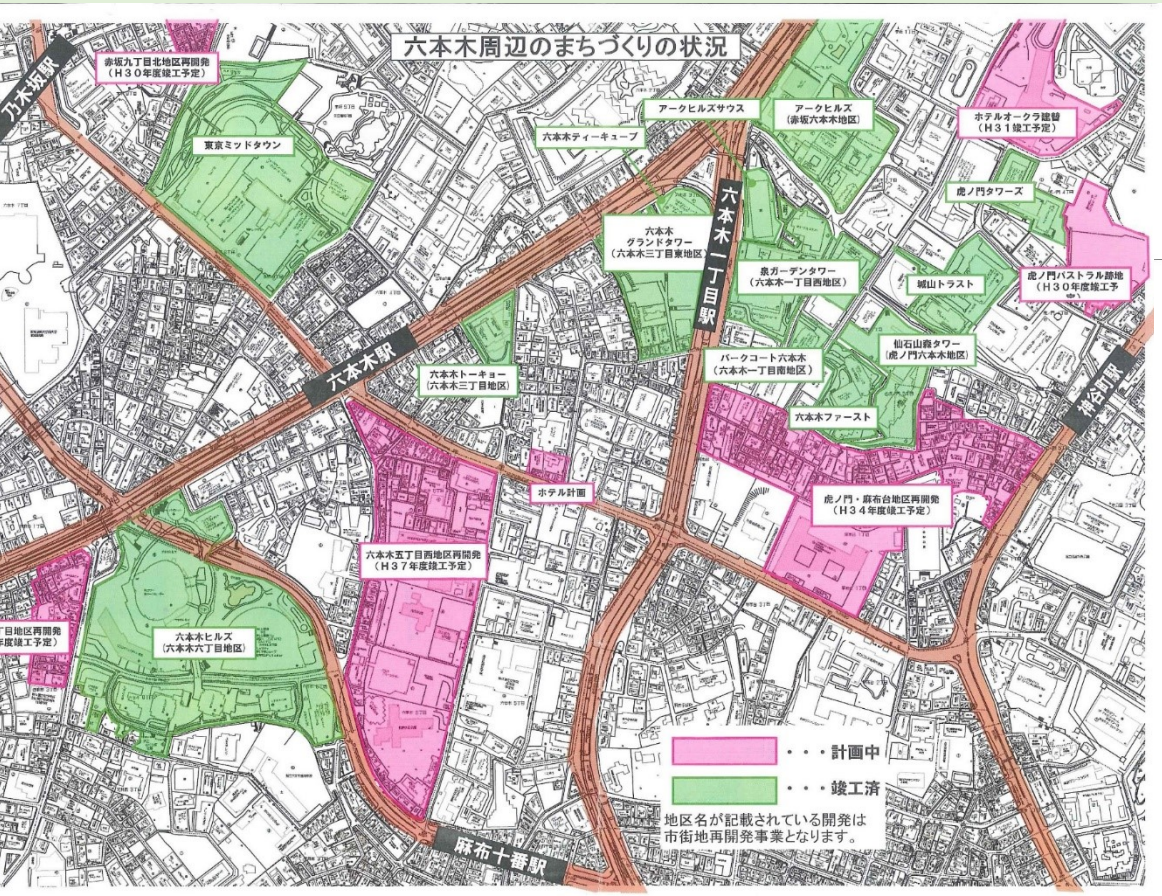
③ 通りに賑わいを作る意味で、道路が単に通過交通の車のための道路にならぬよう、ハンプや床素材の工夫等により速度抑制をすると共に、ボラードの設置など、歩行者が両側から安全に行き来ができるようにしてもらいたい。

④ 第三回意見交換会、資料 P15 の２-3 まちの魅力・特性の商店街（紫線）が、赤坂小学校の手前までとなっているが、乃木坂まで商店街が繋がっており、街の連続性という意味で、資料 P32，2-7(1)エリア別のまちづくりにおいても、そこまで延長した記載にしていただきたい。

これらは、当まちづくり協議会が長年にわたって推進している豊かで快適な暮らしをする

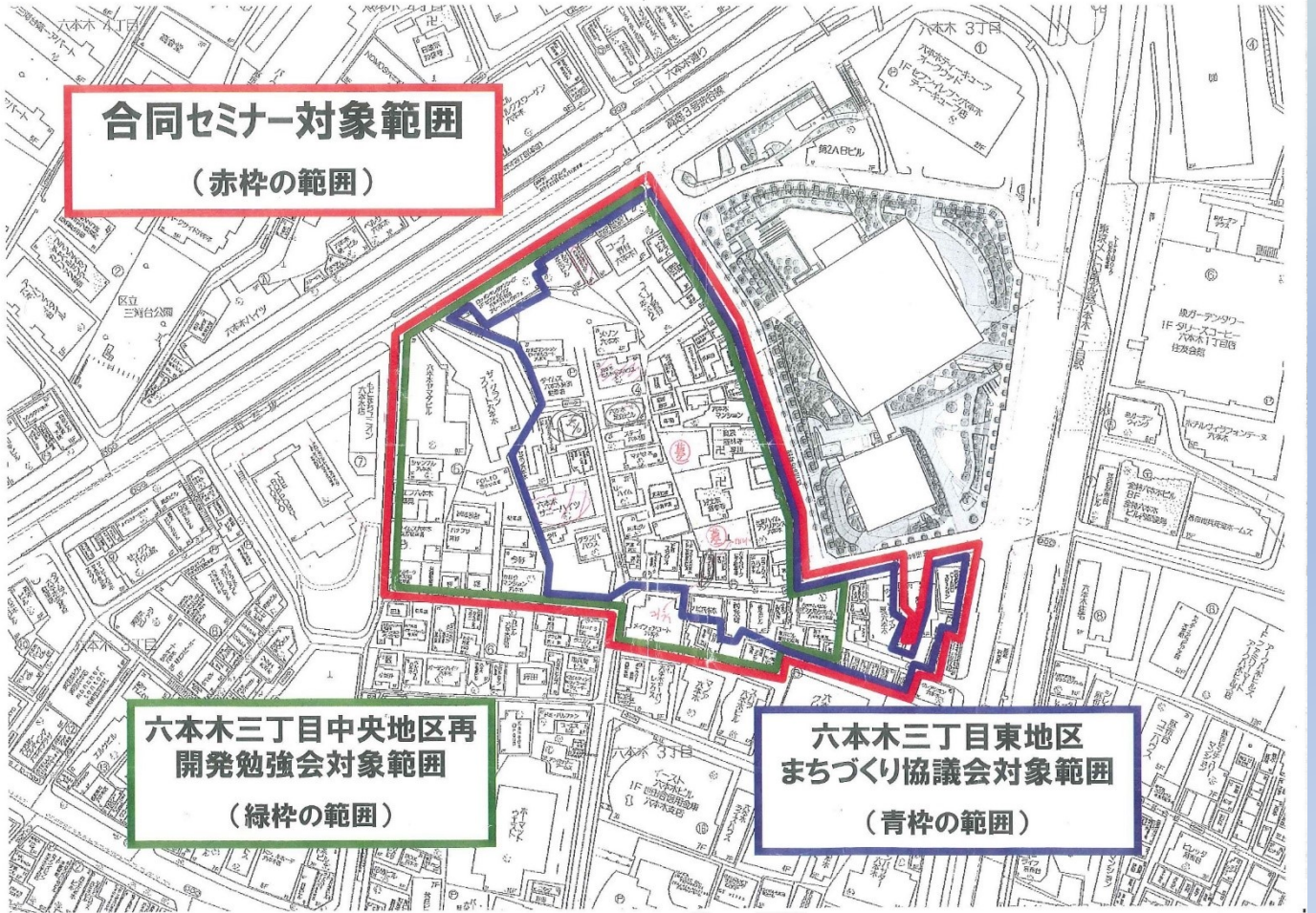
# 再開発における住民参加のまちづくり

当方の立場：登録まちづくりコンサルタント




六本木周辺における再開発事業

再開発のエリア外の住民も参加できる機会を作る



# 再開発手法を用いたワークショップ
# 再開発手法を用いないワークショップ
# の両方を実施し、それぞれの特質を理解する！

## 第４回まちづくり合同セミナー（シリーズ１）：講演「良質なまちづくりとは何か？」

サブテーマ：六本木三丁目の東側の地区のアイデンティティーづくりを英国の経験より話す。
いつまでも住み続けられる街とは？参加のまちづくりを楽しもう！

■日時：2017 年１月 29 日（日）14：00 ～ 16：00
■場所：住友不動産六本木グランドタワー９F カンファレンスセンター
■講師：連健夫氏：建築家・港区まちづくりｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ、早稲田大学、首都大学東京非常勤講師

①癒され元気になる街並みを英国に見る
村の構成要素は教会＋公園＋パブ（食堂・バー）であり、新しい集合住宅の設計にも活かされています。イギリス庭園は自然の景観、地形を活かすのが特徴です。前庭は街並に貢献する半公共的な場として捉えており、コミュニティと地域資産へ貢献しています。つまり個人のｽﾄｯｸ(建物や庭広場）が社会のｽﾄｯｸ(街並、地域資産）になっています。

②良質な建築・街づくりの仕組（英国 CABE）
英国には良質な建築・まちづくりを行うシステムとしてCABE（ケイブ）という組織があります。公共建築や一定規模以上の建築に対して、専門家が入って協議調整が行われています。

③街づくりのポイント：地域のタカラ（良い点）を活かすと共に、アラ（問題点）を解決し地域の特徴を活かすこと。耐震化・不燃化を図り安心、安全な環境を作ること。
街づくり条例をうまく活用し、街の個性（アイデンティティ）を共有化することです。

## 第４回まちづくり合同セミナー（シリーズ２）：「コラージュづくり大会」

将来の街のイメージを各自、持ち寄ってコラージュ（切り貼り絵）を皆で作りました！
■日時：2017 年３月 12 日（日）14：00 ～ 16：00
■場所：港区麻生区総合支所「区民協働スペース」　■参加者（47 名）

**■まとめ**
**①顔が見える街**
**②ずっと住み続けられる街**
**③緑がいっぱいある街**
**④高層だけでなく中層や低層住宅等**

## 第４回まちづくり合同セミナー（シリーズ３）：具体化のデザインを考える（デザインゲーム）

コラージュ大会で得られた将来の夢を、地図の上にスタイロブロックを使って、建物や広場をゲーム感覚で作りました！

デザインゲーム：住民参加のまちづくりの手法、皆で一緒に考えることにより、敷地の特徴や建物と外部空間との関係を理解すると共に将来の夢を具現化（ゾーニング配置）することになります。今回のデザインゲームは、再開発を前提にして行ったものではなく、「再開発という手法を使った場合にどのような形になるのか」をゲーム感覚で皆で作ってみようという試みです。これを通して設計条件として、①～⑥のまとめが生まれました。これをベースにして次回はプロが複数のゾーニング案を出し、皆で検討します。
尚、協議会では別な機会に「再開発以外の手法」でのデザインゲームもやってみたいと考えています。

■日時：2017 年５月 20 日（土）14：00 ～ 16：00
■場所：港区麻生区総合支所「区民協働スペース」　■参加者（42 名）

### Ａグループ

①住宅とオフィスタワーのエリア分け
②２つのタワーの領域感
③グランドタワーとの整合性・一体感（課題）
④段差を活かす場所（ﾛﾝﾄﾞﾝﾘｰｼﾞｪﾝﾄ広場的）
⑤住民重視の地域→広場を広く、丘の感じ
⑥オープンスペースを活かす
⑦いい感じ！
⑧屋上庭園が欲しい！
⑨建設費が UP しそう。

### Ｂグループ

①業務棟は六本木通り側に配置
（ビル風が生じないデザイン）
②住居棟は南側に配置
③両棟の間に広場（六本木通り側）と
公園（南側）を設ける
④お寺の擁壁（崖）周りは緑にする
⑤建物の周りに遊歩道を設ける
⑥広場、公園の周りにお店を配置
⑦広場と公園の間は大階段とスロープで繋ぐ
⑧寄席坂を人が歩ける坂道として継承する
⑨公園には池、噴水を！

# 令和５年度　港区麻布町会・自治会連合会　交流会
# 「再開発と町会・自治会」ワークショップ
# まちづくりで対話の機会をつくる

日時：令和６年２月１０日（土）
　　１３：３０～１５：３０
会場：東京ミッドタウン タワー４階
　　カンファレンスルーム
　　（第１部）３・４、（第２部）５

## 次　　第

１３：３０　開会挨拶

１３：４０　＜第１部＞

再開発に関する町会・自治会の対応に関するセミナー

講演「まちづくりで対話の機会をつくる」

【講師】連　健夫 氏

　再開発やマンション建設において、建設側と周辺住民との対話は、良質なまちづくりにおいてとても大切です。また、新住民とのコミュニケーションの機会を如何に作るかについても防災、防犯のみならず、過ごしやすい街にするために大切です。
　まちづくりにおけるルールやきっかけも含め、ご一緒に（対話の機会）について考えましょう！

１４：２０　休憩・移動

## 連　健夫　（むらじ　たけお）　先生　　プロフィール

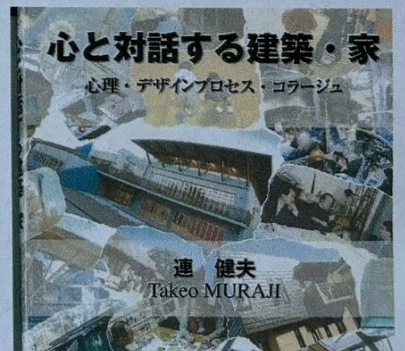
一級建築士・認定まちづくり適正建築士

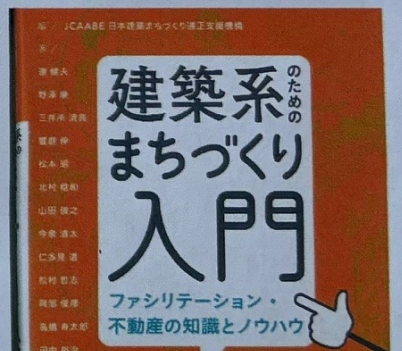
（有）連健夫建築研究室主宰
一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構代表理事
早稲田大学、芝浦工業大学非常勤講師
港区登録まちづくりコンサルタント、港区景観アドバイザー

1956 年京都市生まれ、東京都立大学大学院修了の後、建設会社 10 年勤務、胃の手術がきっかけとなり、1991 年に渡英、ＡＡスクール留学、ＡＡ大学院優等学位を取得の後、同校助手、在英日本大使館嘱託を経て、1996 年に帰国、（有）連健夫建築研究室設立、設計活動と共に、まちづくりにも関わっている。

●作品
・ルーテル学院大学新校舎（2006 年 JIA 優秀建築選）
・はくおう幼稚園おもちゃライブラリー（2006 年 栃木県建築景観賞）
・荻窪家族レジデンス（2016 年 グッドデザイン賞）

●著書
・イギリス色の街（技法堂出版、1996 年発行）
・対話による建築まち育て（共著、学芸出版社、2003 年発行）
・心と対話する建築・家（技法堂出版、2006 年発行）
・建築系のためのまちづくり入門（共著、学芸出版社、2021 年発行）　等



# 港区麻布地区自治会主催
# →港区が支援
# （資金・会場・専門家）

# 事前復興まちづくり

震災が起こる事前に、
復興のシュミレーションをするまちづくり

事例：白金高輪
（立場：専門家、ファシリテーター）
主催：港区高輪地区総合支所

# エリアを廻る：危ない所、安全な所、
# 発災後に使える場所など話しながら歩く

かわら版：
出席できなかった人にも分かるようにする
→記録

白金五・六丁目地区

第１号

# 震災復興 まちづくり訓練 かわら版

平成２９年１２月

【発行】 港区 高輪地区総合支所 協働推進課
【問合せ先】（事務局）まちづくり推進担当 電話：03-5421-7664 ﾌｧｯｸｽ：03-5421-7626

## 第１回訓練（ガイダンス）を開催しました！

「震災復興まちづくり訓練」は、通常の防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成29年11月21日（火）、白金の丘学園ランチルームで、第１回訓練を行いました。地域の25名の方々、区職員、専門家が集まり、市古太郎先生（首都大学東京 教授）のお話を聞いて、まちの復興とはどんなことか、イメージを膨らませました。（裏面をご覧ください）

２月の第４回訓練までのお付き合い、どうぞよろしくお願いします！。

## 第２回訓練のご案内

**テーマ** 震災被害をイメージして復興課題を考えよう！

日時：平成29年12月9日（土） 9：30～12：30
場所：白金の丘学園ランチルーム
内容（予定）：
- ○震災で、どのような被害がどこに起きやすいか、防災や復興に役立つ資源がどこにあるか、まちを歩いて確認します。
- ○復興の重要なポイントやテーマ、復興の方針づくりなどを話し合います。



## 第１回訓練の様子

訓練を実施した豊島区上池袋地区のまち歩きの様子

### 市古先生の講演

神戸市の野田北部地区の実際の復興の様子を映画で見ながら、
- 都内で行われた、同様の訓練の事例と、その地区に合った復興を検討した成果。
- 港区都市計画マスタープランの「回復力のあるまち」を実現するための方針や、都の被害想定など。

等のお話しをしていただきました。

港区都市計画マスタープラン

### 復興問題トレーニングをやってみました ～“ワークショップ”ってなに？

訓練の方法である“ワークショップ”を体感しながら、当地区で被災したらどんなことに困るのか、４つの班で考えてみました。

班ごとに、なりきる家族構成と住まいの被害を決めました。

その家族が、震災１週間後、１か月後、３～６か月後に、どこにいて、どんなことに困っているか、イメージを出し合いました。

**「A 古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦とネコ」が「全壊」した班**

⇒時間が経つと、まちを離れて住まわざるを得ない人が出て、今までのコミュニティがどうなるか心配。 等

**「D マンション住まいの親子４人家族（小学生、幼児）」が「大規模半壊」した班**

⇒ライフライン被害のため、実家を頼るが、１か月後頃から、子どもの教育を考えて自宅に戻るか悩みそう。 等

**「C 戸建住宅に住む３世代家族、祖父は町会役員」が「一部損壊」した班**

⇒自宅に住み続ける。みんなで協力して取り組んだり、外からの支援を受けることを考える必要がある。 等

**「D マンション住まいの親子４人家族（小学生、幼児）」が「全壊」した班**

⇒避難所に行くしかないが、マンションの全員が入れるか不安。建物の再建については意見が割れなさそう。 等

「まちの復興には、様々な人の立場も考えていくことが大切」ということを共有できたのではないでしょうか？。今後もそのような視点を持って検討していきましょう！。

各グループで話し合ったことを発表し、共有する

# 良質な建築、美しいまちづくりのために

- 市民・住民参加は大切→建築設計とまちづくり
- 第三者の専門家が関わる
  →デザインレビューとアドバイス

- 話し合いをまとめる技術
  →まちづくりファシリテーター養成講座

- ※仕組み→協議調整のプラットフォームづくり

# ファシリテーターとは何か

■ファシリテーター：Facilitator、促進者
1940年代後半に用いられ始めた言葉、当初はｸﾞﾙｰﾌﾟｶｳｾﾘﾝｸにおいて、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの進行役として全体をまとめていく役割を示していた。それが
会議などで、発言や参加を促したり話の内容を整理し、参加者の認識を一致を確認する役割や、まちづくり活動における住民の様々な意見をまとめていく役割などに繋がっている。

課題を達成すべく、公平な立場に立ち、専門家の言葉を分かりやすく解説したり、住民のつぶやきを意味ある言葉に翻訳するなど、様々な立場の意見をまとめていく調停者の役割を担う。

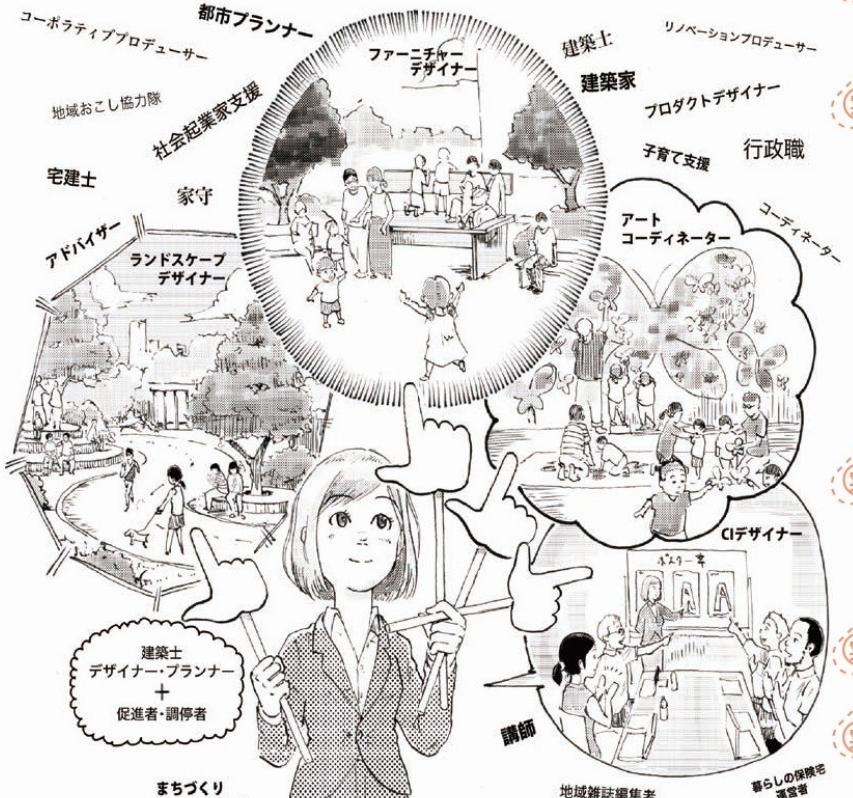
# 建築系・まちづくり系 for オンライン

# まちづくりファシリテーター養成講座

※JCAABEで運営、実施

## あなたも街のキーパーソンになりま

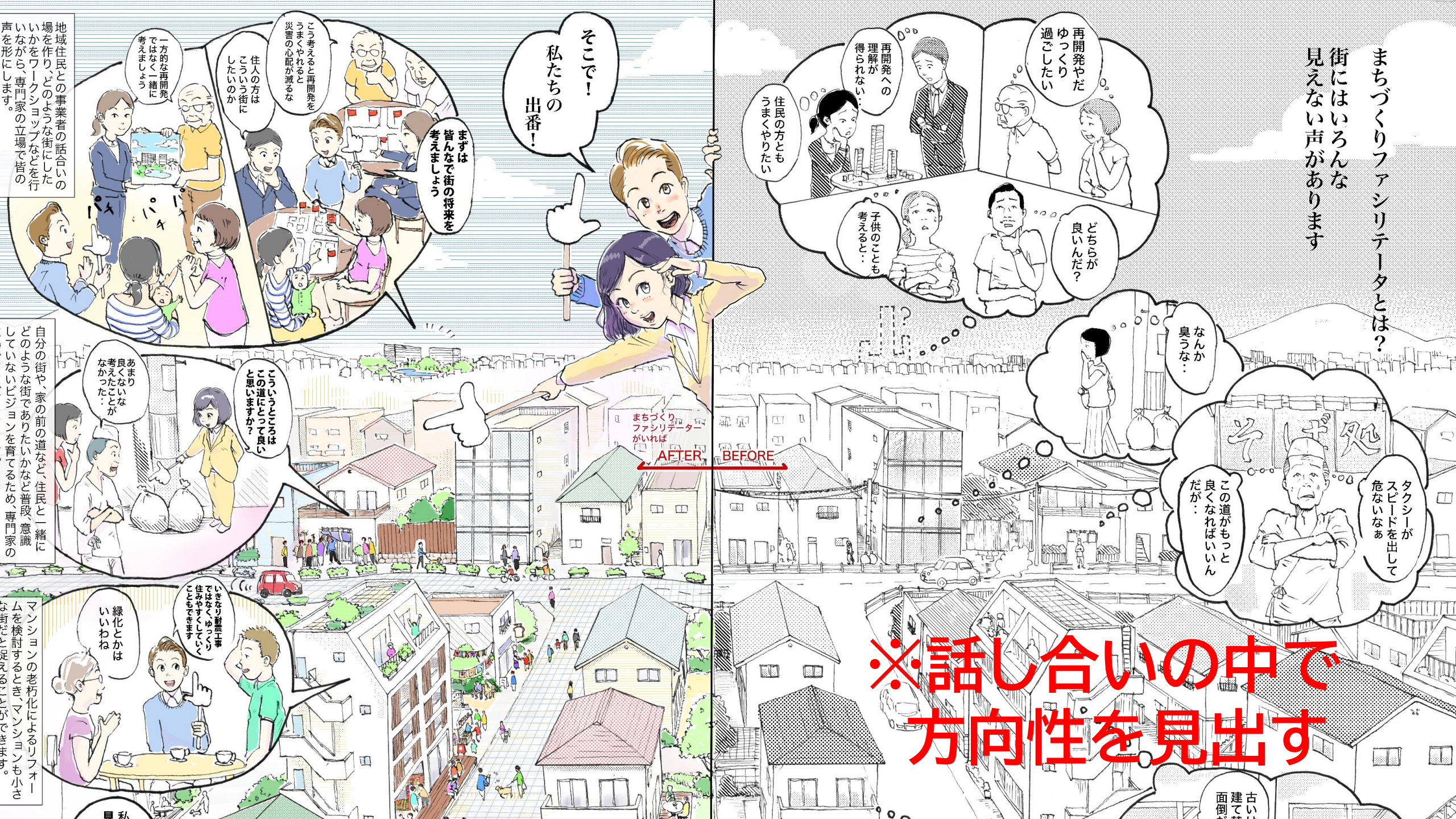
街には、空き家や中心市街地活性化などの課題があり、建築には新築のみならずリノベーションなど編集設計が求められています。これには多様な知識を持つ、まちづくりファシリテーター（促進者・調停者）が必要であり、ここに建築系・まちづくり系の学生、実務者向けの養成講座を設けました。この機会に受講し、 社会のニーズに応えられる専門家を目指しましょう！




### まちづくりファシリテーター養成講座カリキュラム

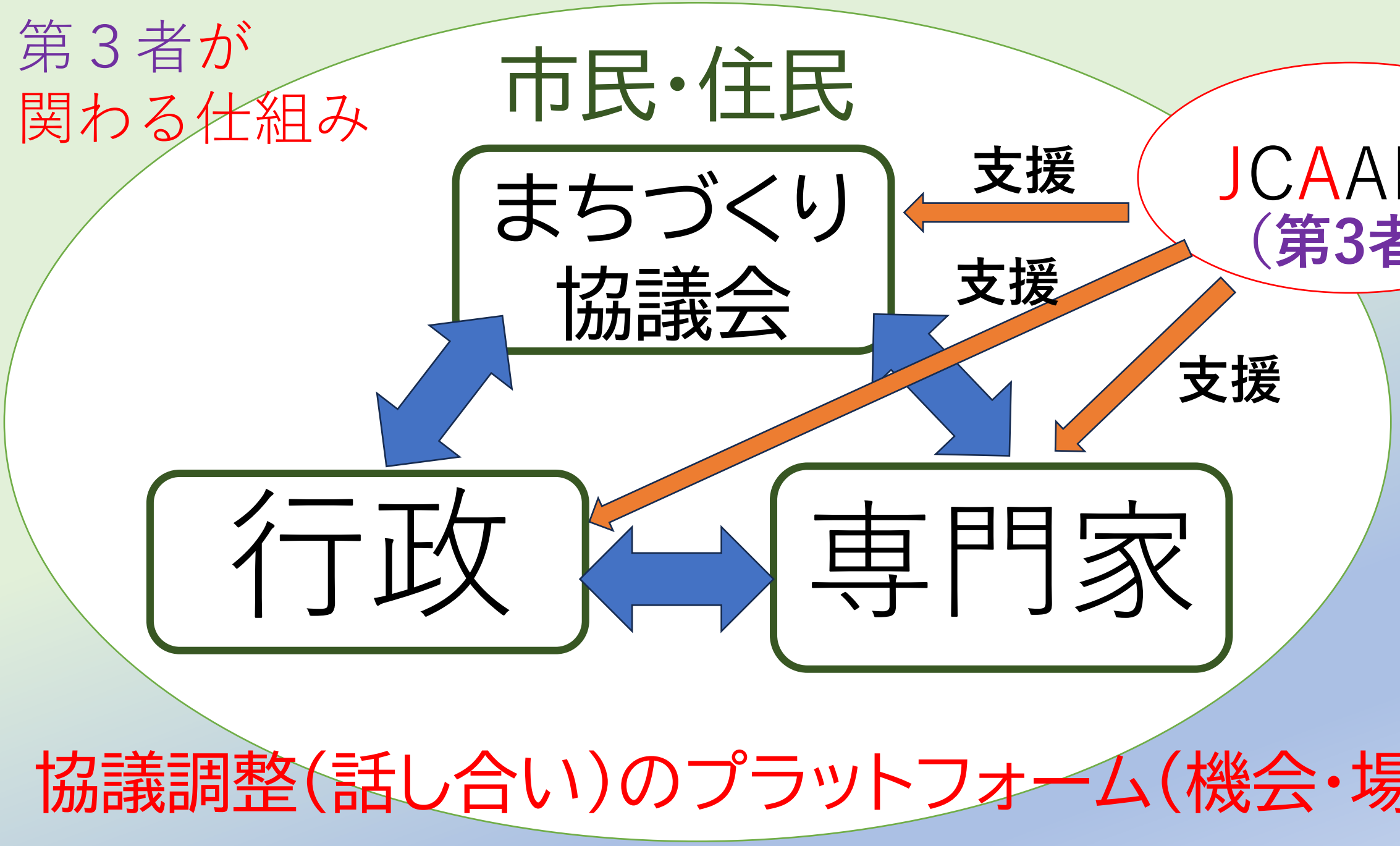
| | 分野・領域 | プログラム名 | 内容・ねらい | 担当講師(演習課題出題) |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 総合 | 建築から街へ―まちづくりファシリテーターとは何か？ | まちづくりファシリテーターの概要を理解する | 連健夫（登録建築家/日本建築まちづくり適正支援機構代表理事） |
| 2 | B、都市計画 | 都市計画の変遷と住民参加の重要性 | 都市計画の歴史の中での住民参加、専門家、ファシリテーターの役割を学ぶ | 野澤康（工学院大学教授/博士） |
| 3 | | まちづくりﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝスキルと実践 | まちづくりファシリテーターのコミュニケーションスキルと実践を学ぶ | 松村哲志（登録建築家/名古屋女子大学） |
| 4 | | 【実践】コミュニケーション技術演習 | ロールプレイやディベイトを通してコミュニケーションのスキルを習得する | 松村哲志（登録建築家/名古屋女子大学） |
| 5 | C、合意形成ワークショプ | 目標イメージ共有のためのワークショップ | まちづくりの目的に応じた手法、参加対象や募集の方法、実践スケジュールの立て方を理解する | 阿部俊彦（立命館大学准教授/博士） |
| 6 | | 目的に応じた合意形成の手法・プロセス | まちづくりの具体的手法を学ぶ、自己紹介、合意形成、街歩き、KJ法、コラージュの方法を理解する | 連健夫（登録建築家/日本建築まちづくり適正支援機構代表理事） |
| 7 | | 【実践】ワークショップ演習（ＫＪ法・コラージュ） | KJ法、コラージュづくりを実際に行い、プロセスと留意点を学ぶ | 連健夫（登録建築家/日本建築まちづくり適正支援機構代表理事） |
| 8 | B、都市計画 | 地域特性を活かすルール、規制や法律、まちづくり条例とは？ | なぜまちづくりにルールが必要なのか、地域特性を活かすルール,規制,法律,まちづくり条例について学ぶ | 連健夫（登録建築家/日本建築まちづくり適正支援機構代表理事） |
| 9 | E、修復・防災・エネルギー | 自然災害にそなえる事前復興まちづくりの方法論 | 事前復興まちづくり訓練、防災やフェーズフリーデザインを理解する | 市古太郎（東京都立大学教授/博士） |
| 10 | | 【実践】事前復興まちづくり演習 | 事前復興まちづくりワークショップの演習 | 市古太郎（東京都立大学教授/博士） |
| 11 | A、建築デザイン | 建築・まちづくり実践と建築士の役割 | 事例を通して建築とまちづくりとの関係、建築士の多様な役割を学ぶ | 三井所清典（登録建築家/まちづくり専攻建築士/アルセット建築研究所/芝浦工業大学名誉教授） |
| 12 | | 建築設計における参加のデザイン | 建築設計における参加型の設計プロセスを事例を通して学ぶ | 連健夫（登録建築家/日本建築まちづくり適正支援機構代表理事） |
| 13 | | 【実践】参加型デザインによる実例見学 | 参加型の設計プロセスによってできた事例を訪問、見学し、利用者へのヒアリングを含め、学ぶ | 連健夫（登録建築家/日本建築まちづくり適正支援機構代表理事） |
| 14 | | リノベーションまちづくりの動きと実践 | リノベーションとは何か？まちづくりとの関係、事例を通して学ぶ | 連勇太朗（建築家/NPOモクチン企画） |
| 15 | | 【実践】リノベーション技術・実習 | リノベーションの演習課題を行い、それを通して、スキルの習得と共に留意点を学ぶ | 連勇太朗（建築家/NPOモクチン企画） |
| 16 | E、修復・防災・エネルギー | 自然環境・エネルギーを取り巻く状況とまちづくりとの関係 | SDGsとまちづくりの関係、エネルギーとまちづくり、省エネ技術について学ぶ | 北村稔和（㈱家フリマ代表） |
| 17 | | 【実践】エネルギーとまちづくりの実践 | スマートタウンの実践事例を通して、エネルギーとまちづくりを捉える | 北村稔和（㈱家フリマ代表） |
| 18 | A、建築デザイン | 耐震化、不燃化、インスペクションの実際 | インスペクション、耐震化,不燃化の技術、方法、助成制度の仕組について各種構造別に理解する | 向田良文（建築家/デザインタック代表） |
| 19 | | 【実践】インスペクション演習 | インスペクション、耐震化と不燃化の技術を用いた演習を行う | 向田良文（建築家/デザインタック代表） |
| 20 | E、修復・防災エネルギー | 地域資源としての文化財の保存と活用 | 保存、修復とまちづくり、歴史的建築物と近代建築の保存、利活用を学ぶ | 渡邉研司（東海大学教授/博士） |
| 21 | | 【実践】修復実例見学 | 保存、修復事例を訪問、見学する。関係者からの説明を含め現状の課題を理解する | 大倉宏（美術評論家） |
| 22 | D、不動産・経営・税 | 建築と不動産、エリアマネージメントをつなぐ基礎知識 | 建築と不動産、経営、税金についての基本を理解する | 高橋寿太郎（㈱創造系不動産代表） |
| 23 | | 【実践】建築と不動産演習 | 建築と不動産、経営等を捉えて、演習を行う | 高橋寿太郎（㈱創造系不動産代表） |
| 24 | | 宅建士に学ぶストックさせないマッチング術 | 今後の不動産業、宅建士の役割、マイナス不動産の活用を学ぶ | 田中裕治（宅建士/全国空き家流通促進機構代表） |
| 25 | | 【実践】今後の不動産、宅建士演習 | 不動産業の初歩的実務の演習を行い、その特徴と留意点を学ぶ | 田中裕治（宅建士/全国空き家流通促進機構代表） |
| 26 | B、 | 人口減少社会における空き屋・空き地という課題 | 空き家空き地の課題、その解決策、行政の対応や助成制度、担い手について学ぶ | 饗庭伸（東京都立大学教授/博士） |

# まちづくりファシリテータとは？
## 街にはいろんな見えない声があります




※話し合いの中で方向性を見出す

第３者が
関わる仕組み




協議調整（話し合い）のプラットフォーム（機会・場）